

# Lib.

ISSN 0287-976X



京都産業大学図書館報  
Vol. 44, no. 2 (Oct. 2, 2017)

・特集 小説家 羽田圭介 ～思考を発酵させるための蓄積～ 京都産業大学図書館書評大賞講演会 etc ... 2-5	・図書館と私 (第5回) 丸山 勝己 ..... 11
・京都産業大学Lib.トーク 2017 Summer 「新聞の読み方講座」 ..... 6-7	・情報の探し方 (No.30) 「新聞のデータベース」 ..... 12-13
・進む 図書館のバリアフリー ..... 8	・今をキャッチ。(キーワード09) 「言語習得について」 アイズウィック, ジョン・アラン ..... 14
・図書館を賢く使っていただきます。(その10) 「視聴覚資料の利用」 ..... 9	・自著を語る (No.94) 『生命の内と外』永田 和宏 ..... 15
・ビブリアたいむず (第7回) 「聖地巡礼 ～夏休みスペシャル～」 ..... 10	・図書館からのお知らせ ..... 16



第153回芥川賞作家 羽田圭介氏 「図書館書評大賞講演会」に於いて

# 小説家 羽田圭介

特集

2017年6月23日（金）、『スクラップ・アンド・ビルド』で第153回芥川賞を受賞した作家、羽田圭介氏を講師にお迎えし、「思考を発酵させるための蓄積」と題して、京都産業大学図書館書評大賞講演会を開催しました。Lib.コモンズ（図書館ホール）の定員を上回る200名超の来場者で、熱気に包まれた講演会となりました。

## ■小説家になるまで そして、思考を発酵させるための「蓄積」について

講演会は、羽田氏が小説家になるまでの、思考の「蓄積」にまつわるエピソードから語り始められた。

勉強が嫌いだった子供の時分に、中学受験のため通っていた塾の国語担当講師から勧められた、受験に出てきそうな小説やノンフィクションから読み始めることで、次第に羽田氏の中で読書意識が発芽した。この時、自ら進んで購入し、読んだ本は、妹尾 河童（セノオカッパ）の『少年H』や榎 周平（ニレ シュウヘイ）の『クーデター』だった。

受験に合格した後は、通学電車の中では読書をして時間を過ごす。3日に1冊のペースだった。限られたお小遣いで中古の文庫本を購入し、宮澤賢治やヘルマン・ヘッセ、メルヴィルの『白鯨』といった、古典ばかりを読んでいた。

中学1年生の11月。学校のマラソン大会が行われた日、そのマラソン大会会場からの帰りの電車の中で、ドストエフスキーの『罪と罰』上巻を読み終えた。しかし、『罪と罰』下巻は読まなかった。なぜ読まなかったのかは自分でもわからないそうだ。時は過ぎ、2009年に専業作家になった後の、2012年のこと。多数の登場人物や多様な場面が繰り広げられるため難読であるドストエフスキーの『悪霊』を読んだ。『悪霊』を読んだ勢いで、『罪と罰』下巻を読んだ。この時、上巻は再度読むことはなかったが、なんら無理することなく、上巻から下巻までの話が続いた。あたかも中学1年の時から専業作家になった後の時までずっと繋がっていたかのように。14年の歳月が、自分の中での『罪と罰』上巻の蓄積を発酵させ、『罪と罰』下巻を面白く感じさせたのではないかと、羽田氏は語った。

## ■多様性に対して寛容であれ！ そして、思考の発酵を妨げないこと

人間社会で大切なことの1つとして、羽田氏は「多様性」を挙げる。

しかし、インターネットを介してすぐに何でも検索することで、他人の感想を自分の感想だと思い込んでしまうケースが多すぎると指摘。そこで、夏目漱石の『坊ちゃん』と谷崎潤一郎の『痴人の愛』を例えに挙げ、文学作品を読んで「自分はこういう風に思ったか、どういう風に理解したか、どういう風に捉えたか、自分一人で考えなくなってしまった。」とインターネットを介した検索を批判。この問題の核心は、実際の内容は違うにも関わらず、受験勉強を通じて国語便覧に記載されている内容を正しいと思っていることや、受験勉強的な感覚の延長で自分が抱いた感想は間違っていたくない、間違った感想は正されなければならないという思いの強さだと主張した。

いわば「自分が見たい様にしか物事を見たくない」ことは、他人への不寛容や多様性の否定につながるかもしれないし、思考の発酵の妨げになるかもしれないと懸念し、逆に、他人に対して寛容になるには、自分の考えは正しくないかもしれない、間違いを言ってしまうかもしれないという不安を抱えなければならないと羽田氏は語った。

## ■作品を生み出すこと そして、「思考の発酵」について

文藝賞受賞作品『黒冷水（コクレイスイ）』は原稿用紙400字詰め400枚を3～4ヶ月で書いた。ここから2作目を出すのに2年以上かかった。その後も同様だった。SM小説「トーキョーの調教」（注1）は完成に2年以上かかった。



※赤字（太字）の書名は本学図書館で所蔵しています。

この「トーキョーの調教」に盛り込めなかった要素や設定を用いて短篇小说「メタモルフォシス」（注2）を書き上げた。原稿用紙400字詰め150枚くらいで、本編執筆に2ヶ月、直しは2ヶ月だった。半年もしない内に雑誌に掲載され、この作品で久しぶりに芥川賞の最終候補になり、意外に善戦したと羽田氏は語った。「メタモルフォシス」が芥川賞から落選した2016年7月から2か月後の9月に芥川賞受賞作品『スクラップ・アンド・ビルド』を完成させた。



自分の原稿（思考）は手元に残しておかない。

とにかく自分のベストを尽くして一瞬で書き上げる。

そして、他人、例えば編集者などから客観的な意見を聞くことが大事だ。

他人からの客観的な意見を全部受け入れないこともあるが、意見を突っぱねる過程で自分の頭が整理されてくる。

他人の思考を介して物事を進めていくことで客観性が得られる。

作品を生み出してきたエピソードから、客観性を得るために他人の思考を介することで、自分一人だけでなくとも、思考を発酵させることができることが語られた。

（注）注1・2の作品は単行本・文庫本『メタモルフォシス』に収録されています。

## ■オリジナリティを得ること その始まりは「思考を発酵するための蓄積」からだった

思考を発酵させることによって、自分と他人との間で差異が生まれる。しかし、間違った選択を恐れるため何事においてもインターネット上の情報を調べてしまう風潮から、自分の思考が周囲との間で画一化されてしまい、この差異が見いだせなくなってしまうことを心配する羽田氏。

だが、思考の発酵により生まれる差異の組み合わせが多い人こそ、オリジナリティを得られて、唯一無二の存在になれるのではないだろうかと言った。そして、思考を発酵させるための蓄積を最も手軽に得ることができる術は読書であり、積極的に読書するべきだ。日本ほど手軽に読書できる国は無い。尊い人間になるために、手軽に始められる術は読書だと、参加者にメッセージを送った。

### ■学生から羽田氏への質問をご紹介します！■

Q：小説を書く時、自分の書きたいものを書くのですか？読者が望んでいる様な作品を書くのですか？

A：自分が書きたいものだけを書いています。読者が望むことは既に先人がやっているはず。私は自分が切実に、熱中して書ける内容を書くようにしています。

Q：羽田氏の中で一番影響を受けた作家・作品を教えてください。

A：無数に読書しているので一番は決め難いです。  
しかし、一時期、真似しようとしたのは、藤沢周氏です。最近『武曲（ムコク）』が映画化されました。私が『黒冷水』で文藝賞を受賞した際の選考委員でもあります。藤沢氏の作品から影響を受けようとした時がありましたが、本当に影響を受けたかはわかりません。

Q：文章を書くにあたり、インスピレーションを得ることが必要になるかと思います。小説を執筆される上で、インスピレーションを得るために行う工夫はありますか？

A：文章が書けるようになるとインスピレーションを得やすくなります。文章が書けるようになるために何が必要かと思ったら、論理的な文章を書けるようになることと読書しかありません。前者はトレーニングしかありません。後者は小説を読むことしかありません。日本の国語教育における教科書で読む活字の量では絶対に足りません。読むことが実質文章を書くことだと思ってください。中途半端に書く時間があるのなら、無意識に小説（文章）の型を身に着けることができるようになるはずですので、小説を読むことから始めた方が良いでしょう。

羽田氏のクールでかつ多様な経験に基づくお話はとても興味深く、時間があっという間に過ぎてしまいました。本当に貴重なお話をいただきありがとうございます！これからのご活躍に大注目です！！



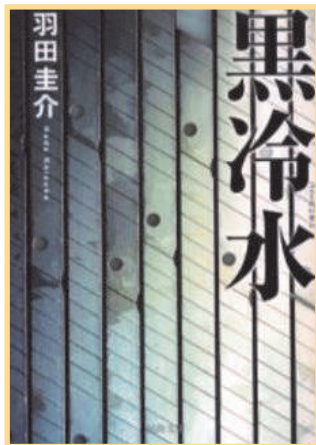


# 小説 羽田 圭介

特集

思考を発酵させるための蓄積

今回ご講演いただいた羽田圭介氏は、1985年東京生まれ。2003年、高校在学中に作家としてデビューされました。ここでは本学図書館で所蔵している羽田氏の著書や講演テーマである「思考を発酵させるための蓄積」に関連する図書をご紹介します。



## 『黒冷水』

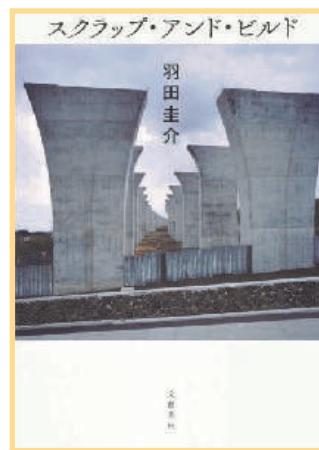
羽田圭介著，河出書房新社，2005  
(913.6||HAD 2階 文庫)

2003年、第40回文藝賞を受賞したデビュー作。高校生の兄の部屋を黙々とあさる中2の弟・修作。その行動に嫌悪し報復を仕掛ける兄・正気。次第にエスカレートする兄弟の醜い争いは「黒冷水」としてあふれ出してゆく……。この作品を執筆された当時、羽田氏は主人公の兄と同じ高校生。書きかけの原稿を家族に見られた時、小説ではなく「課題の論文を作成している」と答えたそうです。

## 『スクラップ・アンド・ビルド』

羽田圭介著，文藝春秋，2015  
(913.6||HAD 2階)

2015年、第153回芥川賞受賞作。仕事を辞め無職になった27歳の健斗は、母と祖父の3人暮らし。次の仕事の面接を受け続け、一方で行政書士の勉強と日々の筋トレに勤しむ生活を送っていました。そんな健斗は一日のほとんどを寝たきり状態で「じいちゃんはまだ死んだ方が良か」が口癖の祖父の願いを叶えるため、ある計画を実行することに。淡淡とした生活の中にある「苟立ち」に気づかされる作品です。



## 『メタモルフォシス』

羽田圭介著，新潮社，2015 (913.6||HAD 2階 文庫)

主人公の証券マン・サトウがハマっていくSMの世界を刺激的に描き、2014年、第151回芥川賞候補作となりました。一気に書き上げたタイトル作とは対照的に、完成に2年以上かかったとされる「トーキョーの調教」も収録。



## 『「ワタクシハ」』

羽田圭介著，講談社，2013 (913.6||HAD 2階 文庫)

高校生でメジャーデビューしたギタリスト・太郎はバンドの解散を経て、大学3年で「就活」の波に身を投じることとなる。はたして再び栄光を掴むことはできるのか？





羽田氏が講演であげられた本の中から、抜粋してご紹介。

「すきま時間にスマートフォンでゲームしたり芸能情報を調べたりすることを、3秒でいから思いとどまり、それによってできる頭のスペースを思考の発酵に使うということ。それは人生を大きく変える。読書は最も手軽に思考の発酵のための蓄積ができる。」

右の色紙は、羽田氏から学生の皆さんへのメッセージです。

### 『少年H』上, 下巻

妹尾河童著, 新潮社, 2000  
(913.6||SEN||1-2 2階 文庫)

羽田氏が小学生時代、はじめてお小遣いで買って読んだ作品。妹尾河童氏の自伝的小説であり、少年の目を通して戦時中の日常が描かれます。題名は、母親が編んだセーターのイニシャルから取った愛称。のちにアニメ化、映画化されました。



### 『罪と罰』上, 下巻

ドストエフスキー著;  
工藤精一郎訳, 新潮社, 1987  
(983||DOS||1-2 2階 文庫)

羽田氏が上巻を読んでから下巻を読むまでの14年の歳月が、思考の蓄積と発酵を促してくれたと話された、言わずと知れた大作。ドストエフスキーの小説の中でもエンターテインメント性が高い作品です。

### 『坊ちゃん』

(日本近代文学大系 25  
: 夏目漱石集 第2巻収録)  
夏目漱石著, 角川書店, 1969  
(918.6||NIH||25 2階)

「熱血教師の青春物語」といわれる作品だが、羽田氏によれば「主人公が頑固さをつき通すが周りから浮いてしまう、その空回りを描く、社会に適合できない男の物語」とのこと。



### 『武曲』

藤沢周著, 文藝春秋社, 2015  
(913.6||HUZ 2階 文庫)

羽田氏が影響を受けたかもしれない作家、藤沢周氏は『ブエノスアイレス午前零時』で第119回芥川賞受賞。文藝賞や開高健ノンフィクション賞等の選考委員も務めています。『武曲』は今夏、綾野剛さん主演で映画化されました。

「思考を発酵させるための蓄積」に欠かせない読書。インターネット頼みではない、あなた自身のオリジナリティを獲得するためにおすすめの読書法・読書術を、図書館所蔵の文庫本の中からご紹介します。



### 『読書のチカラ』 齋藤孝著, 大和書房, 2015 (019||SAI 2階 文庫)

おもしろく本を読むには、読書力を上げるには等、自分なりの読書スタイルを身につける具体的なヒントを得られます。巻末に「おすすめ文庫300タイトル」のリストつき。



### 『本を読むということ: 自分が変わる読書術』

永江朗著, 河出書房新社, 2015 (019||NAG 2階 文庫)

「14歳の世渡り術」シリーズとして出版された本が文庫化。元書店員だった著者の経験を活かした、大人にとっても面白い本の読み方が満載。



### 『読書という体験』

岩波文庫編集部編, 岩波書店, 2007 (019.9||IWA 2階 文庫)

各界著名人34名による「読書という体験」のエッセイ集。34通りの読書体験を読めば、あなただけの読書法が見つかるかも。

# 「新聞の読み方講座」

対話型イベント、Lib.トークの2017年度第1弾として、2017年7月5日（水）に日本経済新聞社大阪本社販売局より今井博司氏をお迎えして、「新聞の読み方講座」を開催しました。

この講座では、最もポピュラーな情報媒体である「新聞」について、日本経済新聞を中心とした新聞の実物を用いながら、記事の読み方や情報の選び方、比較の仕方などを初心者にも分かりやすく解説していただきました。



日本経済新聞社 今井氏

## 新聞はおもしろい

### ▶ 興味・好奇心を持つ

普段よく目にしている視界に入っているモノでも、問われると答えられないことがある。見ているようで実は見ていないのである。興味や好奇心を持って、気にかける意識があれば、同じものを見ていても「情報」が飛び込んでくる。新聞が「難しい」「分からない」とは、単に知らないことが書いてあるから。知らないことに興味や好奇心を持って新聞を読んでみれば分かるようになる。

### ▶ 日本経済新聞で得られるものとは？

「情報」を英語にすると3つの単語がある。一つ目は「news」。新聞やテレビのニュースの意味もあるが、伝聞やしらせ、出どころのはっきりしない噂などの意味でも使われる。二つ目は「information」。出どころがはっきりしていて数字などのデータが含まれる。三つ目は「intelligence」。どう行動するか判断材料となるものという意味。大辞林第3版でも、情報を「ある特定の目的について、適切な判断を下したり、行動の意志決定をしたりするために役立つ資料や知識」としている。

日本経済新聞（以下、日経）は経済を中心とした総合情報紙で、これを読むと経済情報やビジネス情報が得られるといわれる。つまり、ビジネスや投資など、具体的な行動の判断材料になるということ。ビジネスに関連した予測アンテナ（興味・好奇心）を広げて、そこから得た情報で判断して行動するという。まだ学生である皆さんは、ビジネスに直接かかわることはないかもしれないが、皆さん自身も消費者として経済活動に主体的にかかわっている。経済やビジネスにも関心を持ってほしい。

## 新聞の違い

### ▶ 新聞の種類と個性

新聞の種類には、全国紙、ブロック紙、地方紙などがある。新聞社は各社、社是（方針）を持っており、その視点から記事を書くため、各紙の個性が生まれ、取り上げる記事や表現が異なってくる。

例えば、2017年2月23日朝刊のトップ記事の見出しを見てみると、

北朝鮮大使館員関与か 正男氏殺害、警察が聴取要請（朝日新聞）

正男氏殺害 北「国家ぐるみ」濃厚 大使館員が関与（読売新聞）

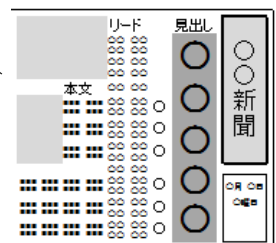
金正男氏殺害：北朝鮮大使館員が主導 警察出頭要請 マレーシア報道（毎日新聞）

同じ事実を報じる見出しであっても、「関与」「主導」のように微妙に表現が異なるところに個性がみられる。一方のその日の日経は、「ヤマト、宅配総量抑制へ 人手不足、労使で交渉 サービス維持限界」をトップ記事としている。経済的な視点で見て、生活環境が大きく変わることが予測される記事の重要度を高く扱っている。他社と同様の記事は、総合分野の記事として3面に載せている。

## 新聞は全部をくまなく読む？

### ▶ 新聞の文字数

日経の1日分の文字数は約250,000文字、400ページの文庫本1～2冊に匹敵する分量があり、全部読むのは、難しい。読んですべてを理解することはさらに難しい。ではどうするかというと、見出しを見て、興味のある記事なら、リード文を読み、さらに詳しく知りたいなら、本文を読む。まずは、どんな記事があるのか、見出しをざっと見てみよう。



▶ まずは読み続けることから

新聞を読み続けると、重要な情報がどれか、以前に読んだ記事と今日読む記事とに関連があるかなどに気がつくようになる。すぐに効果が表れる特効薬ではないので、まずは新聞を読む習慣をつけよう。それには、見出しで記事を選んだり、お気に入りのコラムを読んだり、「気になる業界」など、自分のキーワードを持つとう。

▶ 就職したい分野の企業や業界の記事を読もう

新聞のページ・紙面は、分野ごとに記事が書かれている。たとえば、日経には、その日の重大ニュースが載る1面や総合、政治、経済、オピニオン、金融経済、国際、アジアBiz、企業、投資情報、マーケット総合などがある。この中から就職したい企業の分野や、業界についての記事をひろうこともできる。

▶ 速報ニュースとオピニオンの記事がある

新聞の記事には、速く伝える速報のニュース記事があるだけでなく、事件の背景などもまじえた解説記事やオピニオンの記事がある。オピニオン記事というのは、意見であってそれが必ずしも正しいということではない。社説はオピニオンにあたり、新聞社の主張である。各社の価値判断が異なるため、社説の意見も異なってくる。その社説に、自分は同意もしくは反対することを通じて、考えるためのヒントとするのがいいだろう。

▶ 今の生きている社会を知ろう

今の生きている社会を知るには、いま起こっていることを知るということが大事である。教科書にもない新しい言葉を、日経では、時事用語として解説コラム「きょうのことば」で紹介している。

▶ 新聞とネット情報の違い

新聞は、根拠のある事実を記事にしているため、間違っていることが分かれば、訂正記事を載せる。新聞の紙面には複数の記事が掲載されているので、一目で他の記事も一覧でき、そこで偶然の発見が得られることが利点である。

Web上のニュースは、新着順で記事がアップされ、かつ面白いなどと思われるとクリックされ、クリック回数が多くなるにつれてその記事が上位に順位づけられて、さらに読まれるという仕組みになっている。間違った内容が掲載されたとしても、そのまま修正されない場合がある。中には、事実ではなく思い込みに基づかないフェイクニュースが読まれて拡散していつてしまうこともある。

▶ おすすめ：新聞コーナー

本学図書館は、国内の全国紙・地方紙や主な海外紙など70紙近くの新聞を購読していますが、主要なものは発行当日分を新聞台に平置きにしています。各紙の読み比べに便利です。

▶ 新聞台にある代表的な日刊紙

朝日新聞、毎日新聞、京都新聞、読売新聞、日本経済新聞、日経産業新聞、日刊工業新聞、産経新聞。

その他、ヨーロッパ、アメリカ、中国、韓国の新聞  
新聞原紙の保存期間は、国内の全国紙は最新3ヶ月、地方紙は最新1ヶ月、外国の新聞は最新1年です。

▶ データベースで読める新聞

情報の探し方（本誌p.12-13）をご覧ください。



▶ 新聞に関するおすすめ本

『僕らが毎日やっている最強の読み方』池上彰、佐藤優著、東洋経済新報社、2016.

『新聞の正しい読み方：情報のプロはこう読んでいる!』松林薫著、NTT出版、2016.

『渋井真帆の日経新聞読みこなし隊』渋井真帆著、日本経済新聞出版社、2012.

他にも所蔵しています。KSU-Cat（京都産業大学図書館蔵書目録）で新聞・読み・読むなどのキーワードで探してみましよう。

- ▶ 平成29年度Lib.トーク秋学期は、第2弾ビブリアによる選書ツアー報告会（10月23日）、第3弾サンキュータツオ氏講演（12月1日）、第4弾宮川康子文化学部教授による辞書をテーマとする講座（12月8日）を予定しています。いずれも17時から開催です。お楽しみに。



# 進む 図書館のバリアフリー

京都産業大学図書館では、どなたでも使いやすい施設を目指して様々な設備や機器を備えています。これから設置される新しい設備も含めて一部をご紹介します。

## ▶ スロープ

設置場所：図書館入口横

1階 Lib.コモンズ前

図書館の北側から入口にかけて続くスロープは緩やかで、車いすの方や階段の利用が難しい方も楽に通行いただけます。



## ▶ エレベーター

設置場所：1階 入館ゲート横

2・3階の閲覧室へと続くエレベーター。退館時にこちらのエレベーターをご利用になる際は、2階メインカウンターで資料の貸出手続きをお忘れなく。



## ▶ 点字ブロック

設置場所：2階 エレベーター前

※2018年3月設置完了予定

入館ゲート横エレベーターの2階出入口からメインカウンターへと誘導する点字ブロックが設置される予定です。



## ▶ 多目的トイレ

設置場所：1階 図書館事務室前

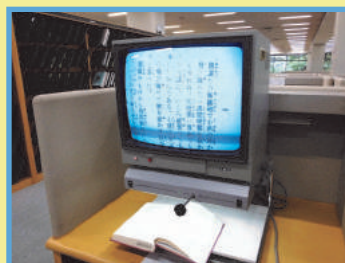
入口は引き戸になっており、中は十分なスペースを確保しています。手すりや図書館事務室に通じる緊急アラームのボタンも設置していますので、安心して使っていただけます。



## ▶ 拡大読書機

設置場所：2階 閲覧室

文字を拡大して資料を読んでいただくことができます。機器の横には簡単な操作説明書を置いていますが、操作が分からない時は気軽にメインカウンターまでお尋ねください。



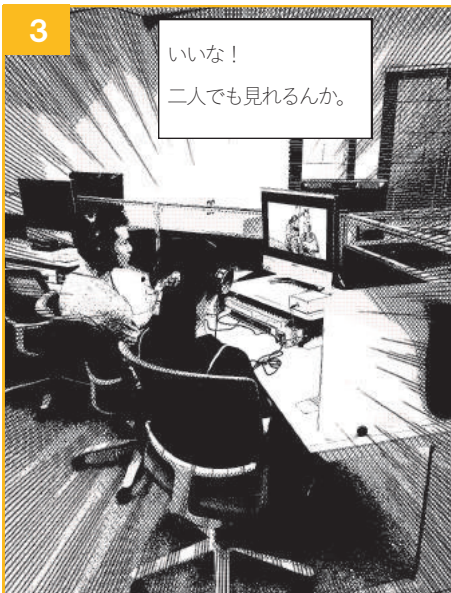
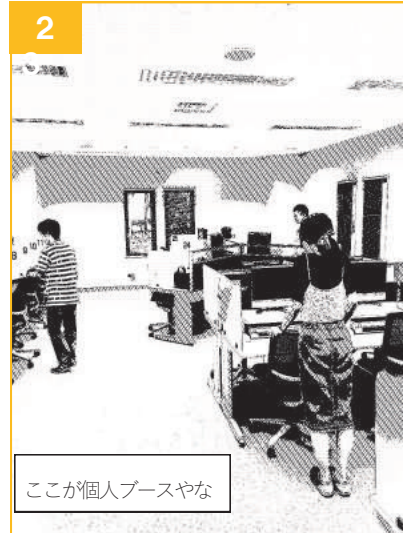
## ▶ 他にも……

1階入口の受付に AED（自動体外式除細動器）を設置しています。

2階北側のトイレ（男・女）が改修されました。※一部温水洗浄便座を装備

# 図書館を賢く使っていただきます。

## ～その10 視聴覚資料の利用～



### 視聴覚資料の利用について

図書館で所蔵しているCD、DVDなどの視聴覚資料は1階の視聴覚室で利用できます。視聴覚室は、個人、2～3名、4～7名、約20名のグループまで対応可能です。158名収容のLib commonsも利用できます。

資料は視聴覚カウンターにあるリストを参照するか、KSU-Cat（蔵書検索システム）で検索し、視聴覚カウンターで手続きを行ってください。

視聴覚資料は館内利用のみで貸出はできません。また、視聴覚室では自身で持ち込んだ資料の利用はご遠慮ください。



# ビブリアたいむず (第7回)

図書館サポートチーム「ビブリア」からの情報発信ページです！

## 行ってきました 聖地巡礼 ～夏休みスペシャル～



八坂神社前。毎日多くの観光客で賑わっています。四条通東の突き当りに位置しており、この神社の祭礼である祇園祭はあまりにも有名。

### ▶ 望月麻衣著『わが家は祇園(まち)の拝み屋さん』(2階文庫コーナー 913.6[MOT])

この作品は、中学の終わりに「とある理由」で不登校になっていた「小春」という名の少女が主人公である。小春は、京都に住む祖母の吉乃の提案により、祇園の和雑貨屋「さくら庵」で住み込みの手伝いをするようになった。そんなさくら庵は、実は少し「不思議な」依頼がくるお店で、その依頼をこなしながら小春が成長していく物語である。

この日、私は、祇園が舞台の名作『わが家は祇園(まち)の拝み屋さん』に度々登場し、「祇園の象徴」とされている八坂神社を訪問した。この日も京都のみならず、国内外からたくさんの観光客で賑わっていた。この作品だけではなく、八坂神社は様々な作品で「祇園」の代名詞として取り扱われている。ちなみに、最寄りのバス停は「祇園」である。これもまさに「言わずもがな」である。

### ▶ 森見登美彦著『夜は短し歩けよ乙女』(2階 913.6[MOR])

京都大学は、主人公の「先輩」と「彼女」が通う大学です。学園祭などで舞台となりました。進々堂は物語のラストで「先輩」が「彼女」をお茶に誘った場所です。四条通は風邪の神様が猛威を振るい、人がいなくなってしまった場所です。普段はたくさんの方がいます。

実際に行ってみて思ったことですが、京阪出町柳駅から京都大学に向かう途中の交差点で、建物の間からチラッと送り火の大文字が見えて嬉しかったです。その後、進々堂から京都大学の正門に向かおうとしたところ大きく遠回りをしてしまい、思いのほか歩く羽目になりました。京都大学は物語を読んで想像していたよりも「かなり広いな」と感じました。



京都大学正門前。「先輩」が日々「偶然の」出逢いを起こしています。

### ▶ 森見登美彦著『有頂天家族』(2階文庫コーナー 913.6[MOR][1])

私達は、京阪祇園四条駅の近くにある南座に行きました。

南座の正式名称は、京都四條 南座と言います。松竹が経営していて、地上4階地下1階の建物は、国の登録有形文化財になっています。

本作では、下鴨神社に住んでいるためぎの4兄弟の三男・矢三郎が、師匠である天狗の赤玉先生が南座の階段に座り込んでるところを見つけるシーンで出てきます。

実際に行ってみて、京阪祇園四条駅の6番出口を出てすぐ、目の前に大きな南座があり、想像以上に迫力がありました。現在、耐震工事で1階が覆われていたため、物語にでてくる階段は見られませんでした。たくさんの方がいたので、階段に座れば目立つだろうなと思いました。



ここが京都四條 南座。歌舞伎などが上演されています。

今回の巡礼者は、天野 貴信 (コン理・3)、大塚 沙耶 (経営・2)、藤井 綺音 (経営・2)、浅田 慎子 (外国語・2)、雨林 亮真 (コン理・1) でした。

## ビブリア新メンバー募集中！

ビブリアは図書館で活動している学生団体です。具体的には、おすすめ本のPOP作成や図書館に関して企画を立案する団体です。本好きにはたまらない！他の活動やサークルとの掛け持ちも大丈夫なので、興味のある人はぜひ一度見学に来てください。お待ちしております。

活動日：毎週水曜日  
時間：12:15～(昼休み中心)  
場所：Lib.コモンズ(図書館ホール)  
連絡先：lib-sensho@star.kyoto-su.ac.jp  
(学生証番号、氏名、連絡先を明記し、メールでご連絡ください)





# 図書館と私

5

利用者の図書館にまつわる  
エッセイをご紹介します！



学生部課長 丸山 勝己 (まるやま かつみ)

私が図書館を利用する理由は、読書のための書籍の貸出を受けることである。これ自体ごくごく当り前のことであり、何の変哲もない行為です。

しかしながら、年間に150冊前後の読書量である私にとって書籍の貸出を受けることは、書籍購入という経費に換算すると年間10万円以上のポケット・マネーを節約させていただいていると言えます。そして、この節約されたお金はというと、そのほとんどがアルコール代に消えるという、実に自分に都合のいい経済効果となっています。また、お借りした書籍は当然ながら返却するので、自宅の自室に保管するスペースも不要です。

ですから、私にとって図書館はすばらしく都合のいい「社会インフラ」となっています。

図書館への美辞麗句はこのあたりでとどめておきますが、昨今の図書館の機能は実に多様であり、情報発信（知の発信）の源であるといえます。

では、私と書籍について少々のうんちくを書かせていただきます。私が読書という「病気」に感染したのは、中学1年生の頃だったと記憶してい

ます。

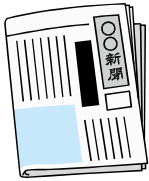
定期試験の概ね2週間前になると、試験勉強に励むのがまわりの一般的な生徒でしたが、私はなぜかその時期になると無性に読書欲が高まり、帰宅後は二日で1冊のペースで読書をしていました。当然ながら、定期試験の結果は散々たるものでした。このような中学校での生活が3年間続いたので、進学した高校は第3志望でした。この結果から、なぜ定期試験前になると「読書」という病気が発症するかを、高校の入学直後に真剣に考えました。その結論は、「現実逃避」でした。そして、今の私にとっての読書とは、さらに症状が重篤になり「慢性現実逃避」に陥っていますが、さすがに社会人ですのでやるべき事をやったうえで、寸暇を惜しんで活字に挑んでいます。

そしてこの「現実逃避」は、「変身願望」であると位置づけています。読書を続けている限り、私は政治家にでも起業家にでもなれます。この原稿を書いている今は、明治初期の僧侶になっています。このおかげで、私は日タリフレッシュすることができていますが、あえて読書家を題材とした作品は避けています。これ以上の読書は、私を破滅させます。何事も中庸が大切ですね。



## 情報の探し方 No.30 「新聞のデータベース」

現在導入しているデータベースなど、学修・研究をする上で欠かすことのできない検索ツールの利用方法などを紹介するコーナーです。



新聞資料は、図書や雑誌と比べて速報性があるため、新しい情報を入手したいときに有効な情報源であり、また、過去の事実を知るうえでも重要な情報となります。

所蔵資料としては、新聞原紙、縮刷版、マイクロフィルム、CD-ROM、DVD-ROMの形態があります。その他に、Webで簡単にアクセスできるデータベースがあります。今回、「日経テレコン」をはじめとした新聞データベースをご紹介します。

### 日経テレコン（日本経済新聞社）

「日経テレコン」は、日本経済新聞社が提供するビジネス分野に強い新聞データベースです。



記事検索画面

#### ⑦ ◆コンテンツ紹介

収録コンテンツの概要を紹介します。記事検索画面左側にあるメニューでカテゴリー別に分けられています。

#### 【メインコンテンツ】

##### ①記事検索：日経各紙

日本経済新聞、日本産業新聞、日経MJ（流通新聞）などの記事検索ができ、発行当日の記事のテキスト、紙面イメージ（PDF）ともに関連できます。一方、最も古い年代は、例えば、日本経済新聞で1949年4月から収録し、見出しと一部記事の抄録を読むことができます。

→きょうの新聞は、⑤で一覧できます。オススメ！

##### ②企業検索：約2万2千社を収録

上場企業をはじめ全国の最新企業データを収録。事業内容、役員などの基礎情報、財務諸表や業績表などのデータを入手できます。

##### ③人事検索：約30万件を収録

日本経済新聞社が収集した企業の役員や政府関係機関の人事データを収録。

#### 【最新情報】

##### ④ニュース

速報ニュース、企業などが報道機関に発表するプレスリリース本文を収録。

##### ⑤きょうの新聞

直近3日間の新聞記事がジャンルごとの一覧できます。新聞記事の通覧にオススメです。

#### ※【テーマフォルダ】

キーワードを入力することなく、あらかじめ登録されたテーマごとに記事がクリッピングされています。

##### ⑥最新のトピックス

話題の出来事がピックアップされています。その他に、ビジネス・テーマ、業界ウォッチ、調査などのテーマがあります。

#### ◆同時アクセス数：25

同時に25名が利用できます。利用が終わりましたら、ログアウトボタン（⑦）をクリックしてください。

◆上記に紹介したコンテンツの他、各地の新聞や専門紙などの検索が可能です。データの表示ごとに課金される方式のため、レファレンスカウンターへご相談ください。



①

②

③

④

⑤

※

⑥

◆ 日本経済新聞の他、本学で利用できる新聞のデータベースのコンテンツをご紹介します。

<p>聞蔵Ⅱビジュアル（朝日新聞社）</p>	<p>ヨミダス歴史館（読売新聞社）</p>
<p>朝日新聞社が提供する新聞記事データベース。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日新聞（1879年から）</li> <li>・英文ニュースデータベース（2001年4月以降から）</li> <li>・AERA（創刊号から）</li> <li>・週刊朝日（2000年4月号からのニュース面）</li> <li>・知恵蔵（現代用語事典）</li> <li>・人物データベース（政治、経済、研究者、文化人、芸能人、スポーツ選手など幅広く収録）</li> <li>・アサヒグラフ（1923年～1956年）</li> <li>・朝日新聞歴史写真アーカイブ（主に満州事変前後から敗戦まで）</li> </ul> <p>同時アクセス数：7</p> 	<p>読売新聞社が提供する新聞記事データベース。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読売新聞（1874年創刊号から）</li> <li>・The Japan News（1989年9月から）</li> <li>・現代人名録（新聞紙上などに登場する現代のキーパーソン約26,000人を収録）</li> <li>・イミダス（現代用語事典）</li> <li>・各種辞書（大辞林第二版、エクシード英和辞典、エクシード和英辞典）</li> </ul> <p>同時アクセス数：2</p> 
<p>毎索（毎日新聞社）</p>	<p>LexisNexis Academic（LexisNexis）</p>
<p>毎日新聞社が提供する新聞記事データベース。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日新聞（1872年から）</li> <li>・週刊エコノミスト（1989年10月31日から）</li> <li>・ヨロンサーチ（毎日新聞社が実施した世論調査）</li> <li>・20世紀2001大事件（20世紀の事件記事2001件）</li> </ul> <p>同時アクセス数：2</p> 	<p>LexisNexis社が提供する新聞など幅広い情報を収録する欧文データベース。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース（世界各国の約3,000紙を収録，テレビ番組，ラジオ番組の放送書き起こし原稿など，さまざまなニュースソースを収録）</li> <li>その他，企業情報，法情報，雑誌を収録</li> </ul> <p>同時アクセス数：無制限</p> 

◆ アクセス方法

アクセスは、本学図書館Webサイト「データベース」ページから該当データベース名をクリックしてください。学外からは、「学外接続時の認証有無」の欄の「有」から、マニュアルを確認して、ご利用ください。

◆ データベースの利用について分からない点は、図書館2階レファレンスカウンターでお尋ねください！

情報の探し方を紹介する「調べ方ガイド」を本学図書館Webサイトに載せています。ある特定のテーマについて、関連する資料や情報の探し方を紹介しています。こちらもご利用ください。



旬な  
話題を解説!

# 今をキャッチ。



## キーワード 09

## 言語習得について (解説:アイズウィック, ジョン・アラン)

日本の学校教育において、コミュニケーションとしての英語の教育はあまり成功していない様です。国際社会で英語が共通言語となる現在において、日本は他国から遅れをとっています。ETS (Educational Testing Service) によると、2016年度のTOEFLのテストにおいて、アジアにおける日本のスコアは、統計が出ている32か国のうち、下から3番目です。大学生の英語のクラスでの自発的発話は、わずか0.2%という研究結果もあります。日本人は、本当に英語を学ぶ必要があるのでしょうか? もしかしたら、ないかもしれません。しかし、英語に関わらず他言語を学ぶと良いことが沢山あります。言語を通じて、他の文化への見識が広がりますし、就職で有利かもしれません。また、世界の娯楽に接し、旅行の選択肢が広がるかもしれません。しかし、私の意見では、第二言語を学ぶ一番の理由は、脳にとってよい、ということです。第二言語の学習は、心理的柔軟性、問題処理能力や学習能力の向上に貢献します。年齢による認知症がバイリンガリズムによって妨げられるという研究もあります。このような利点があるにも関わらず、言語習得の利点について気が付いている学生は多くありません。英語に関して言えば、2020年から小学校高学年で英語授業が必須となりますが、指導者不足が懸念されています。大学生の皆さんは、今こそ、このような状況をチャンスに変えてください。英語のコミュニケーション能力を身につけた人材が、将来必ず必要とされるでしょう。(アイズウィック, ジョン・アラン 共通教育推進機構教員)

## もっと知りたいあなたに。 ※アイズウィック先生ご推薦!



『はじめての第二言語習得論講義: 英語学習への複眼的アプローチ』  
馬場今日子, 新多了著, 大修館書店, 2016  
(807||BAB 2階)

外国語適性や動機づけなど第二言語習得論の「重要テーマ」がわかりやすく紹介されています。また、SCTやDynamic Theoryといった最新の理論もあわせて紹介されています。「具体的エピソード」が厳選されており、講義形式で解説されているので、これから学習を始める人にもふさわしい一冊です。



『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』  
村野井仁著, 大修館書店, 2006  
(830.7||MUR 2階)

将来、先生になりたい人や、第二言語を効果的に学びたい人にとっての指南書です。インプット重視、インタラクション重視、アウトプット重視の第二言語学習法・指導法が紹介されています。また、フォーカス・オン・フォームによる文法の習得や、第二言語学習と個人差など、実践的な示唆に富んだ一冊です。



『Teaching and researching autonomy in language learning』  
Phil Benson, Longman, 2001  
(807||BEN 地下2階)

自立(自律)学習者であることは、語学学習者にとって非常に重要な要因となります。ラーナーオートノミーとは、自分自身の学習を管理する学習者の能力のことです。この本は、自律型学習の歴史と概要、及びクラスルームにおける理論的実践的研究のレビューを含め、よりよい学習者を目指すための行動様式について説明しています。



『Lessons from good language learners』 edited by Carol Griffiths,  
Cambridge University Press, 2008  
(807||GRI 地下2階)

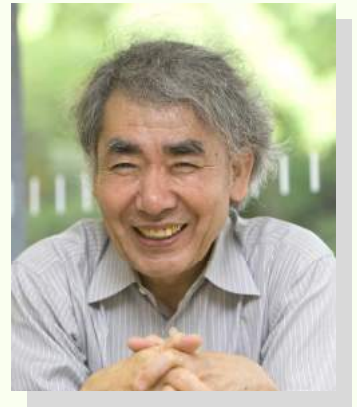
言語習得の成功術についての、概要を述べる優れた一冊です。二部構成になっており、一部では、年齢・パーソナリティ・文化・動機づけ、といった学習者の不確定要素に焦点があてられています。二部は、リスニング、リーディング、語彙、文法といった学習要素について述べられています。よりよい言語学習者を目指すには、ぜひ読んでおきたい一冊です。

# 自著を語る (No. 94)



(463|NAG 2階 教員文庫ほか)

## 永田 和宏 著 『生命の内と外』 新潮社, 2017



生命の最小単位は「細胞」である。ヒトや動物だけでなく、植物もちろん細胞からできているし、バクテリアや酵母は一個の細胞がすなわち一個の生命体を形成している。

私は本学の共通教育科目「生命・環境科学の世界」、あるいは総合生命科学部の講義「細胞生物学」などで、細胞が生命体として存在できるための、3つの基本条件というところから話を始めることが多い。

第一の条件は遺伝子 (DNA) の複製を通じて、自己を複製できることである。第二は細胞膜で囲われること、そして第三は合成・分解といった代謝活動を行えることである。このどれが欠けても、生命体は存在できない。

本書『生命の内と外』は、細胞が細胞膜で外界から区画されることによって初めて生命体として成立した点に注目しつつ、生命の不思議について紹介したものである。

細胞は膜によって外界から区画されなければ生命としては存在し得ない。まさに水も漏らさぬ完全性を以って外部と内部は区画されている。しかし、完全に外界と遮断されてしまえば、これまた生命としては存在できないのである。

外部から栄養物を取り込み、イオンなどの種々の低分子を受け入れなければ細胞の営みは成り立たないし、逆に細胞の中で生じた不要物を外部に排出しなければ、これまた細胞は生きていけない。いっぽうで細胞の増殖や、発生・分化の制御のためには、外部からさまざまな情報を受け取る必要があるが、そんな情報の出し入れもすべて細胞膜を介して行われる。

そう、細胞は膜によって、しっかり外部と内部が区画されていなければ成立しないが、外部と完全に遮断

されては、これまた生命として生きていけないのである。常に外部に対して開かれた存在でなければならぬ。この意味で生命は、そして細胞膜は「閉じつつ、開く」という困難、ジレンマを抱えこむことになった。

いっぽうで生命には、外部の変化に対応して自らを変化させていく柔軟性が必要とされる。外部の変化をそのまま受け入れてその都度自身を変化させていたのでは、生命としては不安定であり、継続的に存在することができない。生命は外部からの変動を最小限にとどめて、自身を一定に保とうとする働きがある。つまり「変わりつつ、変わるまい」とする性質もまた必須なのである。これは恒常性 (ホメオスタシス) と呼ばれる性質であるが、この恒常性を維持するのにもまた、細胞膜がその最前線で働いている。

このように「閉じつつ、開く」、そして「変わりつつ、変わらない」という困難 (アポリア) を克服するために、生命はその誕生以来、驚くべく巧妙なトリック、方法を編み出してきた。それには様々な方法があるが、こんな見事なトリックが、進化による試行錯誤によって自ずからできてきたとは俄には信じられない思いもするのである。本書は、「閉じつつ、開いて」いる膜という存在に焦点をあて、いかに生命が外部との折り合いをつけながら自身の生存を図っているか、その現場を紹介しようとするものである。

こんな生命の最小単位・細胞の営みが、自己と他者の関係、自国と他国の国境、あるいは人間と地球環境といった関係を考える際の、ささやかな励ましになればと願うのである。

(ながた かずひろ 総合生命科学部教員)

# Information

## ◆図書館展示企画「日本を知る 京都と日本の伝統工芸」

京都と日本の伝統工芸にスポットを当て、私たちの住んでいる日本や京都を知るきっかけとします。ぜひご覧ください。

期間：12月28日（木）まで

場所：2階メインカウンター前および1階視聴覚カウンター横展示ケース

## ◆図書館サポートチーム「ビブリア」による選書ツアー 展示及びアンケートを実施しています

「ビブリア」が学生目線で選書した資料の展示と選書に関するアンケートを実施しています。「どの分野の本がよかったと思うか」「各選書本に対する感想」など、ご意見をお聞かせください。

期間：10月31日（火）まで

場所：2階メインカウンター前

## ◆第6回 京都産業大学図書館利用者アンケートにご協力ください

図書館の利用環境改善を目的に、利用者の皆さまの声をお聞きするために、「第6回 京都産業大学図書館利用者アンケート」を実施します。実施期間は11月1日から12月22日です。POSTまたは館内配布用紙にてご回答ください。アンケート結果は、京都産業大学図書館報『Lib.』次号に掲載します。

## ◆図書館の利用ガイドンスに参加しましょう

就職活動に役立つ情報収集法検索実習やレポート作成のための資料探索実習など、秋学期も学生生活に必要な資料の収集方法を修得できるガイドンスを開催します。詳細は、POSTまたは図書館Webサイトでお知らせします。積極的な参加をお待ちしております。

※各イベントなどの詳細は、図書館Webサイト、POST、各種掲示などで確認してください。

## 編集後記

今回の特集は「小説家 羽田圭介」でしたが、いかがでしたでしょうか。書評大賞講演会の後、羽田氏から学生の皆さんへ「とにかく本を読んでください！」とメッセージをいただきました。思考を発酵させるための蓄積はぜひ図書館で。秋の夜長にぴったりの本を見つけてください。

図書館は今年10月に開館30周年を迎えました。これからも施設・



設備・資料・サービスをリニューアルしつつ、利用者の皆さんのニーズに応じてまいります。引き続き、ご期待ください。

（京都産業大学図書館Lib.プロジェクト）

写真：リニューアルした2階北側トイレ

## 寄贈一覧（教員文庫）

寄贈順（2017年3月8日～2017年9月10日）敬称略

坂東 俊矢（法学部）

『18歳からはじめる情報法』法律文化社、2017（共著）

若井 勲夫（名誉教授）

『国語論考：語構成的意味論と発想論的解釈文法』和泉書院、2016  
『唱歌・童歌・寮歌：近代日本の国語研究』勉誠出版、2017

所 功（名誉教授）

『「成人」とは何か：吉田松陰の『士規七則』に学ぶ「成人」の要件』國民會館、2016

安富 潔（法務研究科）

『刑事訴訟法講義 第4版』慶應義塾大学出版会、2017

岩本 誠吾（法学部）

『人道研究ジャーナル Vol.6』東信堂、2017（共著）

野一色 直人（法学部）

『基礎から学べる租税法』弘文堂、2017（共著）

永田 和宏（総合生命科学部）

『生命の内と外』新潮社、2017  
『永田和宏作品集Ⅰ』青磁社、2017

ベレッキア ディエゴ（文化学部）

『能楽の現在と未来』野上記念法政大学能楽研究所、2015（共著）

鈴木 康久（現代社会学部）

『水が語る京の暮らし：伝説・名水・食の文化』白川書院、2010

『京都鴨川探訪：絵図でよみとく文化と景観』人文書院、2011（編著）  
『京の水案内』京都新聞出版センター、2013（編著）

『別冊 太陽「京都を知る100章」』平凡社、2016（執筆）

宮永 健太郎（経営学部）

『環境ガバナンスとNPO：持続可能な地域社会へのパートナーシップ』昭和堂、2011  
『水と森の財政学』日本経済評論社、2012（執筆）

『Transition management for sustainable development』United Nations University Press、2014（執筆）

『公共経営学入門』大阪大学出版会、2015（執筆）

東郷 和彦（世界問題研究所）

『返還交渉：沖縄・北方領土の「光と影」』PHP研究所、2017

増田 将伸（共通教育推進機構）

『コミュニケーションを枠づける：参与・関与の不均衡と多様性』くろしお出版、2017（執筆）

川越 いつえ（外国語学部）

『「不思議」に満ちたことばの世界』開拓社、2017（執筆）

『Proceedings of the 6th Generative Approaches to Second Language Acquisition conference (GASLA 2002)：L2 links』Cascadilla Proceedings Project、2003（執筆）